



## 人間にとって危険な生物

埼玉県獣医師会の高橋三男会長から興味深いお話を伺いました。それは人間にとって危険な生物は何かというお話でした。

一年間にどの生物が1番人間を殺しているかという、何と小さな蚊だそうです。約72万人を死に至らしめています。2番目は人間です。人間が戦争などで殺す人間の数は約47万人だそうです。以下、3位がヘビ5万人、4位が犬2万5,000人、5位がツェツェバエ2万人、8位が回虫2,500人、9位がサナダムシ2,000人、10位がフニ1,000人と続きます。サメは15位で10人とのことです。日本で恐れられている熊は15位以内にも入っていません。

興味を持って調べたところ、この数字はマイクロソフト社の創業者であるビル・ゲイツ氏のブログに紹介されているようです。WHO(世界

保健機関)の統計も確認したところ、人間以外の危険な生物については大きな相違はありません。人間によるものは、その年によって戦争や大紛争があったりなかったりしますので、数字が変動すると思われます。でも残念ですが2位という順位は動かないようです。ちなみに、米国の国務省の発表では2014年のテロによる犠牲者だけでも3万2,000人に上っています。

さらに、WHOの統計で内戦や紛争の多い国の平均寿命を見ると、アンゴラは52.4歳、ソマリアは55.0歳、南スーダンが57.3歳、アフガニスタンは60.5歳と短くなっています。こうした国では、新生児の死亡率も高く、アンゴラが4.87%、ソマリアが3.97%、南スーダンが3.93%、アフガニスタンは3.55%です。一方、日本の平均寿命(男女)は83.7歳で1位、新生児

死亡率は0.09%でイタリア半島にあるサンマリノ(人口約3万2,000人)に次いで低い方から2位になっています。

つまり人間が人間を殺すような所は、感染症対策や新生児医療に手が回らず、他の危険生物からも人間の命を守ることができていないのだと思います。人間が人間にとって危険な生物にならないような仕掛けをさまざまなところに組み込んでいく「人間の英知」が求められていることが分かります。



埼玉県知事 上田 清司